



シナリオ雛型ファイル

NTTアドバンステクノロジー株式会社

商標について

本書において以下に記載された名称、およびその他記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。なお、本文中では™、®、©マークは省略しています。

- WinActor は NTT アドバンステクノロジー株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows^{※1}、Internet Explorer、Excel、VBScript^{※2} は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※1 Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。

※2 VBScript の正式名称は、Microsoft Visual Basic Scripting Edition です。

- その他の記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

本書について

この「WinActor シナリオ雛型ファイル」（以下、本書）は、WinActor のシナリオ雛型作成機能で読み込むシナリオ雛型ファイルの記述仕様の説明書です。

本書に関する注意

- 本書および提供するソフトウェア類に付された著作権表示「Copyright © 2013-2026 NTT, Inc. & NTT ADVANCED TECHNOLOGY CORPORATION」の変更、削除をすることはできません。
本書の著作権は NTT 株式会社及び NTT アドバンステクノロジー株式会社に帰属します。
- 本書では、Windows の操作方法や機能を理解されていることを前提として説明しています。本書に記載されていないことについては、Microsoft が提供しているドキュメントなどをご覧ください。

目次

商標について	i
本書について	ii
目次	iii
1. シナリオ雛型ファイル	1
2. 列名	2
2.1 No	3
2.2 ノード名とコメント	4
2.3 付箋	4
2.4 イベント種別	5
2.4.1 アプリケーション起動に関する操作	5
2.4.2 ファイル操作に関する操作	6
2.4.3 クリップボードに関する操作	8
2.4.4 キー入力に関する操作	11
2.4.5 その他	13
2.4.6 連続するエミュレーションノードの統合	15
2.5 英語表記等	16
2.5.1 列の別名（英語表記）	16
2.5.2 イベント種別の英語表記	17

1. シナリオ雛型ファイル

本書は、WinActor のシナリオ雛型作成機能で読み込むシナリオ雛型ファイルの記述仕様について説明します。

WinActor のシナリオ雛型作成機能の使用方法については『WinActor 操作マニュアル』を参照してください。

シナリオ雛型ファイルは、Excel ファイル形式(.xlsx)または CSV ファイル形式(.csv)です。CSV ファイルは、UTF-8 または MS932 形式（日本語）のエンコードでご準備ください。シナリオ雛型ファイルの 1 行目は、ヘッダ情報（列名）です。2 行目以降がデータになります。

図 1-1 シナリオ雛型ファイル（イメージ）

連携様式.xlsx - Excel							
D8							
EXCELアプリケーションのコピーでは、							
No	ノード名	コメント	付値	イベント種別	アプリケーション	ウィンドウタイトル	付加情報1
1	「受注伝票.csv - Excel」画面操作	フロー No.1	★例外処理 画面に警告が表示されている場合は、キャンセルを押して、処理を中断する。	グループ			
1-1							
1-2	「Down」を入力する	フロー No.3		キー入力	EXCEL	受注伝票.csv - Excel	Down
1-3	「F2」を入力する	フロー No.4		キー入力	EXCEL	受注伝票.csv - Excel	F2
1-4	「Shift+Up」を入力する	フロー No.5	C列コメントは、プロパティのコメントへ D列付値がある場合は、そのノードに付値を付ける	キー入力	EXCEL	受注伝票.csv - Excel	Up
1-5	「25000001」をコピーする	フロー No.6		コピー	EXCEL	受注伝票.csv - Excel	
1-6	「25000001」をコピーする	フロー No.6-2	EXCELアプリケーションのコピーでは、 付加情報 1、2 が空の場合は、エミュレーションのCTRL+Cに割り当て 付加情報 1 でパス指定がある場合は、 スクリプトアクションに割り当て	コピー	EXCEL	受注伝票.csv - Excel	a.xlsx
2	「伝票管理」画面操作	フロー No.7		グループ			
2-1							
2-2	「Ctrl+V」を入力する	フロー No.9		貼り付け	受注伝票システム	伝票管理	
2-3							
3	「受注伝票.csv - Excel」画面操作	フロー No.11		グループ			
3-1							
3-2	「B2」をLeftクリックする	フロー No.13		選択	EXCEL	受注伝票.csv - Excel	a.xlsx



- シナリオ雛型ファイルでは、空白行を最終行と判定しており、空白行以降の読み取りは行いません。
- 1,000 行を超えるシナリオ雛型ファイルを読み込むと、数分以上かかる場合があります。

2. 列名

シナリオ雛型ファイルの1行目に、列名を記入します。

表 2-1 列名一覧

No	列名	説明	必須
1	No	ノード、グループの処理順序、および親子関係を表示します。	○
2	ノード名	ノード、グループに付けられる名前を表示します。	○
3	コメント	ノード、グループに付けられるコメントを表示します。	-
4	付箋	ノード、グループに付けられる付箋の内容を表示します。	-
5	イベント種別	アクション（自動操作の内容）を表示します。	-
6	アプリケーション	アクション（自動操作）の対象アプリケーションを表示します。	-
7	ウィンドウタイトル	対象アプリケーションのウィンドウタイトルを表示します。	-
8	付加情報 1	アクション（自動操作）のパラメータを表示します。	-
9	付加情報 2	アクション（自動操作）のパラメータを表示します。	-
10	付加情報 3	アクション（自動操作）のパラメータを表示します。	-
11	付加情報 4	アクション（自動操作）のパラメータを表示します。	-
12	付加情報 5	アクション（自動操作）のパラメータを表示します。	-
13	付加情報 6	アクション（自動操作）のパラメータを表示します。	-
14	付加情報 7	アクション（自動操作）のパラメータを表示します。	-
15	付加情報 8	アクション（自動操作）のパラメータを表示します。	-
16	付加情報 9	アクション（自動操作）のパラメータを表示します。	-
17	付加情報 10	アクション（自動操作）のパラメータを表示します。	-



- 列名は、1行目の左端の列から右方向に読み込みます。空欄があれば、そこで読み込みを終了し、それ以降の列は読み込まれません。
- 同じ列名が複数存在する場合は、エラーになります。
- 列名には別名を使うことができます。列名を英語で記載したい場合などにご活用いただけます。
 別名については『2.5.1 列の別名（英語表記）』を参照してください。
- 列名でも別名でもない場合は、当該列を読み飛ばします。

2.1 No

「No」列は、シナリオの処理順序を表す番号を記載します。

また「-」ハイフン記号を付けて番号を足すことで、グループ、ノードの親子関係を指定することができます。

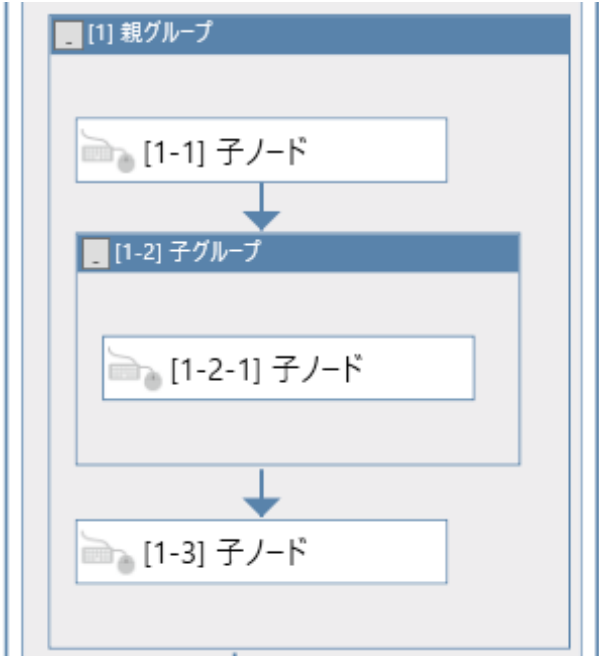
「1」と「1-1」「1-2」という No が記載された場合、「1」は親グループになり、「1-1」「1-2」はそのグループ内の子ノードになります。この場合、「1」のイベント種別は「グループ」として定義する必要があります。

「1-2-1」の様に 3 階層以上のグループ構造を表現することもできます。

表 2-2 階層構造を持つグループの例

No	ノード名	イベント種別	(他の列省略)
1	[1] 親グループ	グループ	...
1-1	[1-1] 子ノード	(グループ以外)	...
1-2	[1-2] 子グループ	グループ	...
1-2-1	[1-2-1] 子ノード	(グループ以外)	...
1-3	[1-3] 子ノード	(グループ以外)	...

図 2-1 ノードの親子関係 (イメージ)



2.2 ノード名とコメント

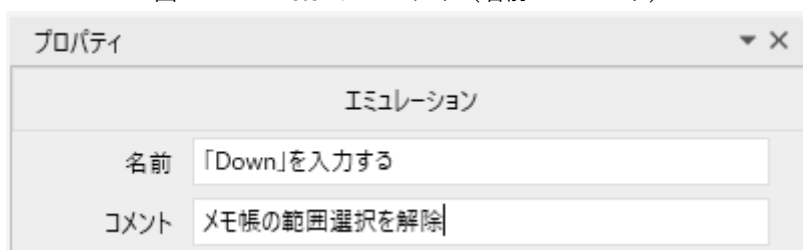
「ノード名」列の内容は、ノードのプロパティの「名前」に埋め込まれます。

「コメント」列の内容は、ノードのプロパティの「コメント」に埋め込まれます。

表 2-3 ノード名・コメントの例

No	ノード名	コメント	(他の列省略)
1	「Down」を入力する	メモ帳の範囲選択を解除	...

図 2-2 WinActor プロパティ（名前とコメント）



2.3 付箋

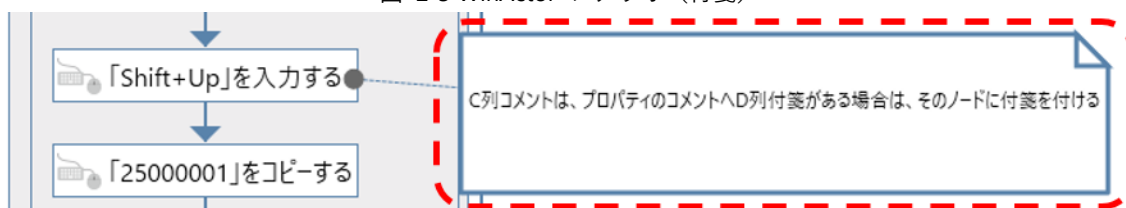
「付箋」列を記入することで、ノードに紐づけられた「付箋」が作られます。

「付箋」列が空の場合、付箋は作られません。

表 2-4 付箋の例

No	ノード名	付箋	(他の列省略)
1	「Shift+Up」を入力する	C列コメントは、プロパティのコメント...	...
2	「25000001」をコピーする		...

図 2-3 WinActor シナリオ（付箋）



2.4 イベント種別

「イベント種別」列と詳細情報（「アプリケーション」「ウィンドウタイトル」「付加情報」の列）を組み合わせることで、アプリケーション起動、キー入力、クリップボードなどアプリケーションを操作するアクションノードを作ることができます。

また、イベント種別を空欄もしくは「グループ」とすることで、グループを作ることができます。本章で定義していないイベント種別を指定した場合も「グループ」として扱われます。

2.4.1 アプリケーション起動に関する操作

■ 起動

「イベント種別」列で「起動」または「アプリケーション起動」を指定した場合、アプリケーションの起動を行うスクリプト実行ノードを作成します。

「付加情報 1」列で指定した exe ファイルを起動します。

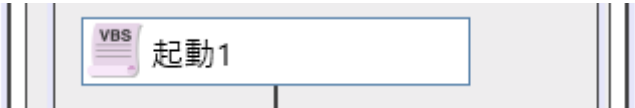
付加情報 2～10 を使って最大 9 つまで起動引数を指定できます。

付加情報 2 以降は省略することができます。

表 2-5 イベント種別「起動」の例

イベント種別	付加情報 1	付加情報 2	(他の列省略)
起動 アプリケーション起動	(exe ファイル名)	(起動引数 1)	...

図 2-4 作成される起動ノード



2.4.2 ファイル操作に関する操作

■ 開く

「イベント種別」列で「開く」を指定した場合、ファイルを開くスクリプト実行ノードを作成します。

「付加情報 1」列で指定したファイルを、ファイルに関連付けられたアプリケーションで開きます。

表 2-6 イベント種別「開く」の例

イベント種別	付加情報 1	(他の列省略)
開く	(ファイル名)	...

図 2-5 作成される開くノード



■ 閉じる

「イベント種別」列で「閉じる」を指定した場合、「付加情報 2」列で指定した Excel ファイルを閉じるスクリプト実行ノードを作成し、実行結果を格納する変数を変数一覧に登録します。

「アプリケーション」列に「EXCEL」を指定します。

「付加情報 1」列には「名前を付けて保存」、「上書き保存」、「保存なし」のいずれかを指定します。

「付加情報 2」列に対象の Excel ファイルを指定します。

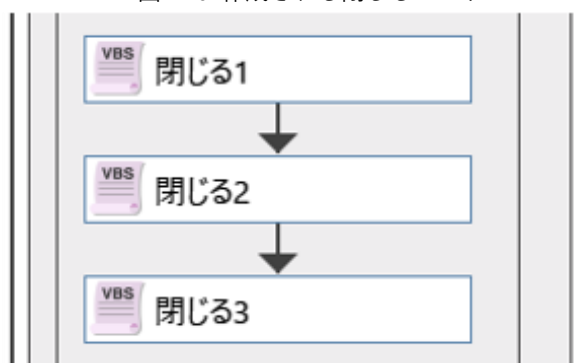
実行結果を格納する変数名を指定します。省略した場合、実行結果を格納する変数は自動生成されます。

「付加情報 1」に「名前を付けて保存」を指定した場合、「付加情報 3」に保存先のファイル名を指定します。

表 2-7 イベント種別「閉じる」の例

イベント種別	アプリケーション	付加情報 1	付加情報 2	付加情報 3	付加情報 4	(他の列省略)
閉じる	EXCEL	名前を付けて保存	(ファイル名)	(ファイル名)	(変数名)	...
閉じる	EXCEL	上書き保存	(ファイル名)	(変数名)		...
閉じる	EXCEL	保存なし	(ファイル名)	(変数名)		...

図 2-6 作成される閉じるノード



2.4.3 クリップボードに関する操作

■ クリップボード

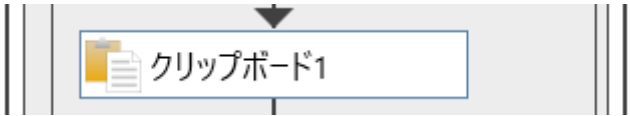
「イベント種別」列で「クリップボード」を指定した場合、クリップボードに値のコピーを行うクリップボードノードを作成します。

「付加情報 1」列で指定した文字列をクリップボードにコピーします。

表 2-8 イベント種別「クリップボード」の例

イベント種別	付加情報 1	(他の列省略)
クリップボード	(文字列)	...

図 2-7 作成されるクリップボードノード



■ コピー

「イベント種別」列で「コピー」を指定した場合、アプリケーションからクリップボードに値のコピーを行うノードを作成します。

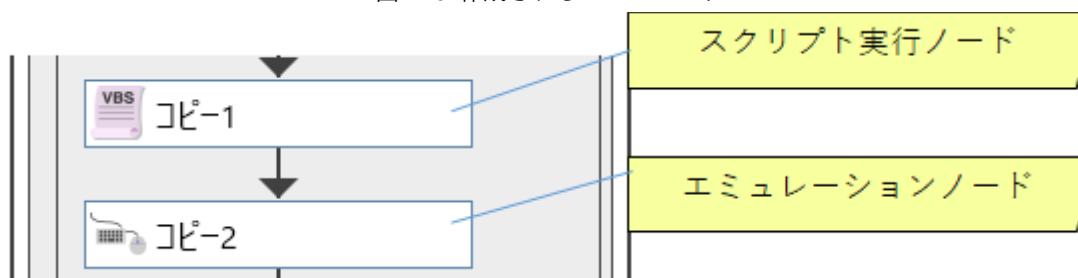
「アプリケーション」列に「EXCEL」、「付加情報 1」列にファイル名を指定した場合は、「スクリプト実行ノード」を作成します。

「ウィンドウタイトル」列を指定した場合は、「エミュレーションノード」と「ウィンドウ識別ルール」を作成します。

表 2-9 イベント種別「コピー」の例

イベント種別	アプリケーション	ウィンドウタイトル	付加情報 1	付加情報 2	付加情報 3	(他の列省略)
コピー	EXCEL		(ファイル名)	(シート名)	(セル名)	...
コピー		(ウィンドウタイトル)				

図 2-8 作成されるコピーノード



■ 貼り付け

「イベント種別」列で「貼り付け」を指定した場合、クリップボードからアプリケーションに値の貼り付けを行うノードを作成します。

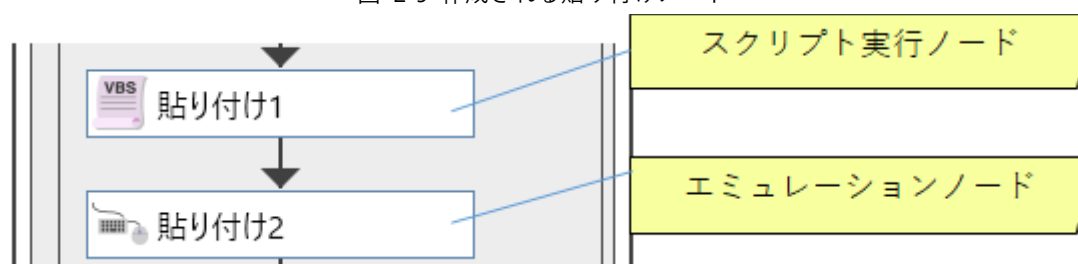
「アプリケーション」列に「EXCEL」、「付加情報 1」列にファイル名を指定した場合は、「スクリプト実行ノード」を作成します。

「ウィンドウタイトル」列を指定した場合は、「エミュレーションノード」と「ウィンドウ識別ルール」を作成します。

表 2-10 イベント種別「貼り付け」の例

イベント種別	アプリケーション	ウィンドウタイトル	付加情報 1	付加情報 2	付加情報 3	(他の列省略)
貼り付け	EXCEL		(ファイル名)	(シート名)	(セル名)	...
貼り付け		(ウィンドウタイトル)				...

図 2-9 作成される貼り付けノード



2.4.4 キー入力に関する操作

■ キー入力

「イベント種別」列で「キー入力」を指定した場合、キー入力を行う「エミュレーションノード」と「ウィンドウ識別ルール」、または「文字列送信ノード」と「ウィンドウ識別ルール」を作成します。

「ウィンドウタイトル」列が空の場合は（スクリーン）が対象となり、「ウィンドウ識別ルール」は作成されません。

入力するキーは、付加情報 1～10 で指定します。

単キー入力の場合は「付加情報 1」列のみ指定します。

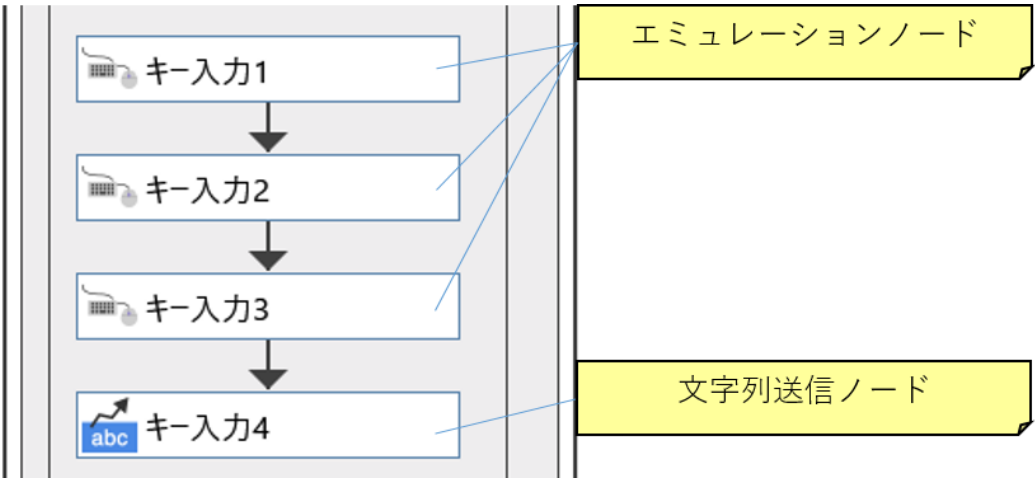
複合キー入力の場合は、付加情報 2～10 を使います。

付加情報 1～10 が全て入力可能な文字（Shift などの機能キー以外）の場合に、「文字列送信ノード」を作成します。

表 2-11 イベント種別「キー入力」の例

イベント種別	ウィンドウタイトル	付加情報 1	付加情報 2	付加情報 3	(他の列省略)
キー入力	(ウィンドウタイトル)	Enter			...
キー入力	(ウィンドウタイトル)	Ctrl	C		...
キー入力	(ウィンドウタイトル)	Ctrl	Shift	F4	...
キー入力	(ウィンドウタイトル)	a	b	c	...

図 2-10 作成されるキー入力ノード



付加情報で指定できるキーの情報を下表に示します。
英語の大文字/小文字は区別しません。

表 2-12 「キー入力」で指定できるキー

付加情報 1～3		
A～Z	Shift	Esc
0～9	Ctrl	F1～F12
-	Windows	PrintScreen
^	Alt	Up
¥	無変換	Left
@	Space	Down
[	変換	Right
;	ローマ字	NumLock
:	BackSpace	NUM0～NUM9
]	Enter	NUM/
,	Insert	NUM*
.	Delete	NUM-
/	Home	NUM+
\	End	NUM.
半角/全角	PageUp	
Tab	PageDown	

■ 文字入力

「イベント種別」列で「文字入力」を指定した場合、ウィンドウに文字列を送信する「文字列送信ノード」と「ウィンドウ識別ルール」を作成します。

「付加情報 1」列で指定した文字列をウィンドウに送信します。

表 2-13 イベント種別「文字入力」の例

イベント種別	ウィンドウタイトル	付加情報 1	(他の列省略)
文字入力	(ウィンドウタイトル)	(文字列)	…

図 2-11 作成される文字入力ノード



2.4.5 その他

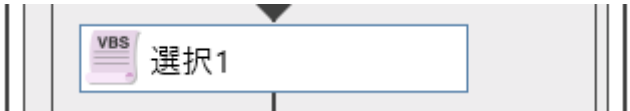
■ 選択

「イベント種別」列で「選択」を指定した場合、選択を行う「スクリプト実行ノード」を作成します。

表 2-14 イベント種別「選択」の例

イベント種別	アプリケーション	付加情報 1	付加情報 2	付加情報 3	(他の列省略)
選択	EXCEL	(ファイル名)	(シート名)	(セル名)	...

図 2-12 作成される選択ノード



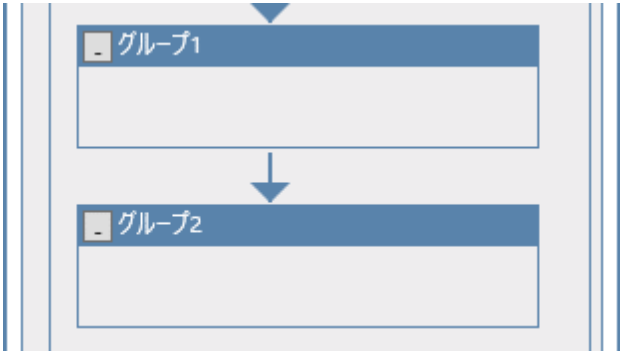
■ グループ

「イベント種別」列で「グループ」を指定した場合、グループノードを作成します。
イベント種別として定義されていない文字列を「イベント種別」列に指定した場合、または「イベント種別」列を空欄とした場合も、グループノードを作成します。

表 2-15 イベント種別「グループ」の例

イベント種別	(他の列省略)
グループ	...
(空欄)	...

図 2-13 作成されるグループノード



■ ウィンドウを閉じる

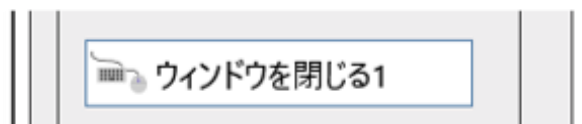
「イベント種別」列で「ウィンドウを閉じる」を指定した場合、ウィンドウを閉じる「エミュレーションノード」と「ウィンドウ識別ルール」を作成します。

「ウィンドウタイトル」列が空の場合は（スクリーン）が対象となり、「ウィンドウ識別ルール」は作成されません。

表 2-16 イベント種別「ウィンドウを閉じる」の例

イベント種別	ウィンドウタイトル	（他の列省略）
ウィンドウを閉じる	（ウィンドウタイトル）	…

図 2-14 作成されるウィンドウを閉じるノード



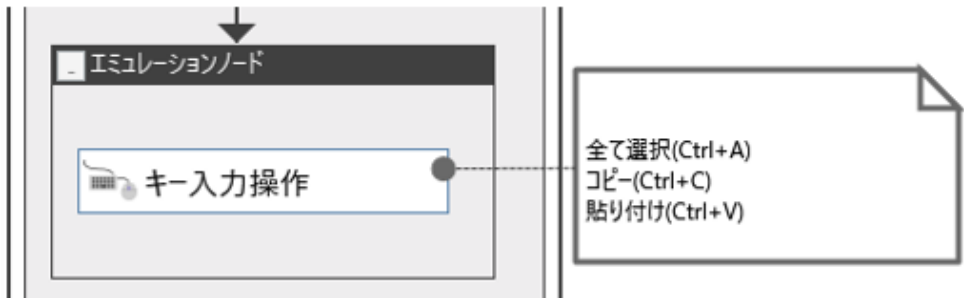
2.4.6 連続するエミュレーションノードの統合

「ノード名」列および「ウィンドウタイトル」列が同じエミュレーションノードが連続する場合は、一つのエミュレーションノードに統合されます。コメントおよび付箋、操作の内容は結合されます。

表 2-17 連続するエミュレーションノードが統合される例

ノード名	コメント	付箋	イベント種別	ウィンドウタイトル	付加情報 1	付加情報 2
エミュレーションノード			グループ			
キー入力操作	(コメント)	全て選択 (Ctrl+A)	キー入力	(ウィンドウタイトル)	Ctrl	A
キー入力操作	(コメント)	コピー (Ctrl+C)	キー入力	(ウィンドウタイトル)	Ctrl	C
キー入力操作	(コメント)	貼り付け (Ctrl+V)	キー入力	(ウィンドウタイトル)	Ctrl	V

図 2-15 作成されるエミュレーションノード



2.5 英語表記等

2.5.1 列の別名（英語表記）

列名は下表に示す別名を使うことができます。

例えば、「ノード名」を英語で「node-name」と記述することができます。

英語の大文字/小文字は区別しません。

表 2-18 列の別名

No	列名	別名						
1	No							
2	ノード名	名前	node-name	name				
3	コメント	comment						
4	付箋	注記	Memo	note	Annotation	sticky-note		
5	イベント種別	操作種別	イベント	アクション	event-type	event	action	
6	アプリケーション	application						
7	ウィンドウタイトル	ウィンドウ識別名	ウィンドウタイトル	ウィンドウ識別名	window-title	window-spec-name	winid	winid-name
8	付加情報 1	引数 1	param1					
9	付加情報 2	引数 2	param2					
10	付加情報 3	引数 3	param3					
11	付加情報 4	引数 4	param4					
12	付加情報 5	引数 5	param5					
13	付加情報 6	引数 6	param6					
14	付加情報 7	引数 7	param7					
15	付加情報 8	引数 8	param8					
16	付加情報 9	引数 9	param9					
17	付加情報 10	引数 10	param10					

2.5.2 イベント種別の英語表記

イベント種別は下表に示す英語表記を行うことができます。

イベント種別では、英語の大文字/小文字は区別しません。

表 2-19 イベント種別の英語表記

日本語表記	英語表記
起動 アプリケーション起動	Execute
開く	Open
閉じる	Close
クリップボード	Clipboard
コピー	Copy
貼り付け	Paste
キー入力	Keyboard
文字入力	Input-text
選択	Select
グループ	Group
ウィンドウを閉じる ウィンドウを閉じる	Close-window



NTTアドバンステクノロジー株式会社

Copyright © 2013-2026 NTT, Inc. & NTT ADVANCED TECHNOLOGY CORPORATION

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で複写、複製することは禁じられています。
本マニュアルの内容は予告なく変更される場合があります。

WA7-Y-20260424